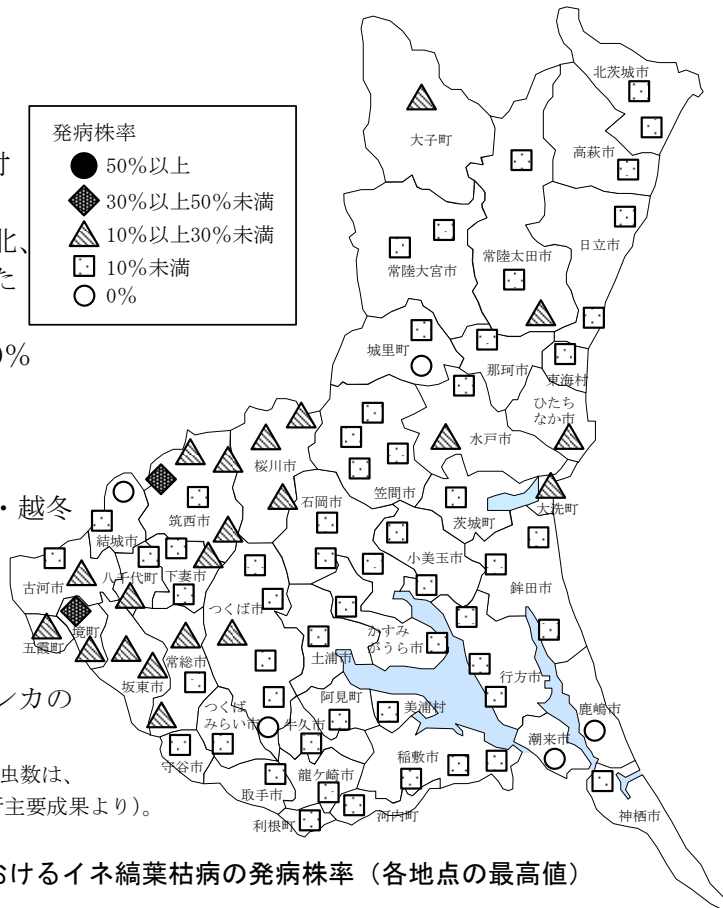
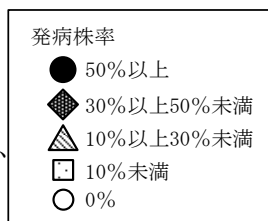


ひこばえ（再生稲）におけるイネ縞葉枯病の発生状況と防除対策

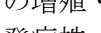
病虫害防除所では、9～10月に県内84地点の水田において、ひこばえ（再生稲）におけるイネ縞葉枯病の発生状況を調査しています。近年、県西地域では減少傾向にあるものの、県北・県央地域で増えています。翌年の発生を少なくするためには、引き続き徹底した防除対策が必要です。速やかにひこばえをすき込むとともに、冬季の畦畔等の除草に努め、ウイルスを保毒したヒメトビウンカの越冬量を減らしましょう。

〔現在の発生状況〕

- ① ひこばえにおけるイネ縞葉枯病の発病株を調査した結果、42/44 市町村で発生を確認した（図、表）。
- ② 地域別の平均発病株率は、県西、県北、県央、県南、鹿行地域の順で高かった（表）。
- ③ 市町村別の最高発病株率は、0～38.0%であった（表）。



〔防除対策〕

- ① ひこばえは、ヒメトビウンカの増殖・越冬場所となるほか、ひこばえが発病株である場合、ヒメトビウンカの保毒虫率上昇の原因となるため、収穫後は速やかに耕起する※。
- ② 畦畔等のイネ科雑草は、ヒメトビウンカの越冬場所となるため、除草に努める。
- 

※畦畔のイネ科雑草におけるヒメトビウンカの越冬虫数は、
水田の耕起時期が早いほど少ない (R1 農業研究所主要成果より)。

図 ひこばえ（再生稲）におけるイネ縞葉枯病の発病株率（各地点の最高値）

表 ひこばえ（再生稲）におけるイネ縞葉枯病の各市町村別の平均発病株率および最高発病株率

地域	市町村	発病株率（％）		地域	市町村	発病株率（％）		地域	市町村	発病株率（％）	
		平均 ¹⁾	最高 ²⁾			平均	最高			平均	最高
県北	日立市	2.2	6.7	鹿行	鹿嶋市	0	0	県南	守谷市	4.4	8.3
	常陸太田市	4.3	14.3		神栖市	0.5	1.0		つくばみらい市	2.1	4.3
	高萩市	5.3	8.7		鉾田市	0.6	3.0		利根町	1.7	3.3
	北茨城市	3.1	7.3		潮来市	0	0		県南平均	1.9	－
	常陸大宮市	2.1	7.3		行方市	1.2	3.7		県西	下妻市	6.9
	大子町	8.5	15.3		鹿行平均	0.7	－	筑西市		7.4	38.0
	県北平均	3.8	－		土浦市	0.8	1.0	桜川市		5.4	15.3
	水戸市	5.4	16.7		石岡市	1.4	6.7	結城市		0.9	3.3
ひたちなか市	9.3	13.3	かすみがうら市	0.7	2.0	常総市	5.9	25.7			
那珂市	3.3	5.7	龍ヶ崎市	1.8	4.7	八千代町	3.4	14.3			
小美玉市	1.4	3.3	牛久市	0.7	1.0	古河市	6.5	14.7			
県央	茨城町	0.1	0.3	県南	稲敷市	1.3	4.0	坂東市		11.2	16.0
	大洗町	5.3	13.3		美浦村	2.9	3.7	五霞町	12.8	15.7	
	東海村	1.9	4.0		阿見町	2.7	6.0	境町	12.9	32.3	
	笠間市	2.2	8.3		河内町	0.9	4.3	県西平均	7.0	－	
	城里町	0.8	3.7		取手市	2.8	3.7	全県平均	3.7	－	
	県央平均	2.9	－		つくば市	2.6	10.3				

- 1) 各市町村1~6地点の平均値。1地点あたり1~5圃場調査 (300株/圃場)
2) 市町村内で最も高かった圃場のデータ